

業況レポート

製造業

- ◇パン…学校が夏休みに入り、仕事量は少なくなった。この間に、普段はできない機械の整備や工場内外の清掃、衛生面での管理として器具や薬剤の設置・補充を実施する。年間200日足らずしか稼働しないので、経営は非常に厳しい。
- ◇酒…6月の課税移出数量は、対前年同月比99.7%とやや持ち直しの感がある。その内、特定名称酒（吟醸・純米・本醸造）は、毎月堅調な伸びを示し、6月は114%と大幅に伸びた。焼酎は、93.9%と回復基調にある。メーカー各社の販売数量は落ち込んでいるが、単価の高い銘柄の販売が増加し、売上金額は増加している。清酒輸出に関しては、当組合員も積極的に取り組み、ジェット口茨城が主催する商談会に6社が参加予定。
3月31日に発刊した当組合の蔵元情報誌「茨城の地酒と蔵元」の増刷を予定している。
- ◇納豆…原材料費・人件費・諸経費が高騰する中、一部の大手メーカーが商品の値上げを試みているが、その商品が取引停止になったり、売場の縮小を強いられたりと、流通側の値上げに対する抵抗が非常に大きい。中小メーカーは、経営の厳しさから、資金繰り・工場稼働率維持のため安価販売に走るところが出てきている。流通側は、品質より価格を重視する傾向になってきている。
- ◇菓子…梅雨明け以降猛暑が続いた影響で、和菓子・洋菓子ともに売上が落ち込んだ。お盆の時期のお土産品の売上に期待している。
- ◇繊維製品（袋物）…お盆休み前の駆け込み需要があり、各社とも仕事量が多かった様子。賃金を上げるために、加工代の値上げを要求していきたい。
- ◇木材…7月前半は天候不順が続き、現場作業が遅れるなど低調な荷動きで推移。中旬以降も回復の兆しが見られず、お盆前の駆け込み的な動きも見られない状況である。外材の入荷量が少なく、値上げ基調が見られる。
- ◇プレカット…前月と同様、目標の90%程度まで達成できた。8月はお盆休み前に加工が多く、お盆休み明けから9月の中旬にかけても予定が入るなど順調。
- ◇段ボール…売上高は前年と同程度だが、仕入価格が上がった分収益が悪化している。販売単価を上げたいが、なかなか値上げできない。
- ◇プラスチック製品…組合員によりばらつきはあるものの、総じて売上高の減少に歯止めがかからな

い状況。同業他社の廃業などにより、一部で引き合いはあるものの、価格の面で折り合いがつかない。

- ◇焼物…今年の夏も大変暑く、お客様の流れが悪くなっている。夏が過ぎ、暑さが落ち着かないとどうしようもない。
- ◇鍍金…売上高は前年並み。金属材料、工業薬品などは需給・価格ともに安定している。燃料費は月半ばから値下がり傾向だった。業界の景況は低迷気味。
- ◇電化機器…当月の生産高は、対前年同月比でマイナス（△76百万円、△9.4%）、特に自動車関連の生産が不振だった。
- ◇自動車部品…企業間の格差がやや目立っている。
- ◇工業団地（農機部品）…主得意先の上期増産計画に対応するため、生産が増加。対前年同月比売上高は31%増加し、過去最高の売上高だった先月を上回る結果となった。従業員数は、臨時社員の増加により前年同月比5%増加。

非製造業

- ◇水産卸…精算所取扱高は対前年同月比3.43%増。猛暑の影響で、冷蔵庫の電力使用量が増加し、契約電力もあがって厳しい状況。
- ◇県南地区卸売…全体的に売上が減少気味。
- ◇食品卸売…野菜に関しては、先月に引き続き数量が前年並で、単価が2割強ほど高くなった。4月の曇天と5月の干ばつの影響が未だ残り、北海道・東北で生育の遅れが見られることが要因。ここ数カ月の単価高に加え、7月下旬からの猛暑の影響で、商品が傷むなどのロスが出て、収益をあげることが難しい状況になっている。
- ◇セメント卸…袋セメントの出荷数量は、対前年同月比11%減少。建設業界の工事件数減少の影響で、袋セメントの需要も低迷している。
- ◇家電…主な店舗で売上が前年を上回っている。特に、エアコンや冷蔵庫が好調。例年より気温が高めなことと、消費税が8%に上がって約1年が経過し、消費者が慣れてきたことも影響している。
- ◇県北地区共同店舗…プレミアム付商品券を取り扱った店舗とそうでない店舗で売上の明暗がわかれた。
- ◇県央地区共同店舗…プレミアム付商品券は2日で完売した。特別セールとの組み合わせで高単価商品もよく売れて、全体として順調な滑り出しであった。
- ◇県南地区共同店舗…サービス部門を中心に客数が戻りつつある。また、気温の上昇とともに飲食部

- 門も前月比で3ポイントほど回復した。しかし、物販部門は回復の兆しが見られず苦戦している。
- ◇中古自動車…6月以降、オークション出品台数・成約率・売上単価のいずれも減少に転じつつあり、その結果収益も悪化している。新車販売台数の減少の影響があると思われる。各組合員の業況も芳しくなく、販売不振が続いている。
 - ◇石油…原油価格が安値で推移しているため、ガソリンの販売価格は前年同月比で27円下落している。需要も減少しており、依然として元売子会社・広域事業者などによる安値販売競争が続いているため、経営環境は悪化している。
 - ◇商店街（下妻）…月初は例年より気温が低い影響で夏物が振るわなかった。中旬から下旬にかけては、気温が一気に上昇し、客足が鈍り売り上げが少なかった。中心市街地活性化補助金を活用し、11月に秋のイベントを行う予定。
 - ◇ホテル旅館…県北臨海施設では、海水浴のお客様が前年同月より減少している。ひたちなか・大洗エリアでは、団体客の受け入れや、海浜公園への来園者などで稼働率は上昇傾向。例年より梅雨明けがはやかったこともあり、海水浴客の出足は良いものの、近年は海水浴離れの傾向が強くなり、その影響を心配している。県央・県西・鹿行地域では、夏休みの合宿などで宿泊客は伸びてきているが、価格を下げての集客であるため、売上は減少傾向。
 - ◇自動車整備…組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）の対前年同月比は、普通車101.9%、軽自動車103.4%とともに増加。
 - ◇総合建設…公共工事の新規発注が増えてきた。公共工事の調達制度としての入札契約は、一部の入札（総合評価制度）を除けば、最安値企業が落札する。最低制限価格を設定している行政もある

が、定めていない行政は安ければよいという状況である。30社以上が参加して最安値を競う場合もある。間違いなく適正な利益は確保できていない。震災後、公共の都合により人員及び設備を増強した企業は、企業規模を簡単に縮小させることができない。本年度末には倒産・廃業する企業が続出する懸念がある。行き過ぎた一般競争入札は、この業界を疲弊させ、国家の維持と成長を阻害する。

- ◇管工事…先月に引き続き、入札工事に関する資材購入が多くなった影響で、売上高が増加した。
- ◇県北地区運輸…主要顧客の物量動向は低調気味で、各組合員の売上は減少している。燃料価格は値下がりしているが、依然として収益は厳しい状況。
- ◇県央地区運輸…飲料水関係の荷動きは良好。一般物の荷量が昨年度を下回っている。軽油が高止まりしているため、収益を圧迫している。

H27.7月の業界天気図

業種	指数	売上		収益状況		
		前年同月比		前年同月比		
食料品業		▲	16.7		▲	50.0
その他製造業		▲	25.0		▲	55.0
卸売業			0.0		▲	50.0
小売業 (商店街を含む)		▲	36.4		▲	45.5
サービス業			0.0			0.0
建設業			20.0		▲	20.0
運輸業		▲	50.0		▲	100.0
全体		▲	20.0		▲	48.0

〔天気図の見方〕県内情報連絡員が毎月いただいている情報連絡票の業況項目について、「増加」又は「好転」業種割合から「減少」又は「悪化」業種割合を差し引いた値（D.I値）をもとに作成しています。その基準は、下図のとおりです。

30以上	10~30未満	10未満~▲10	▲10超~▲30未満	▲30以上

※表の中の数値はD.I値

中小企業者様の財産を様々なリスクから守るために作られた共済組合



茨城県火災共済協同組合

〒310-0801 水戸市桜川2-2-35 茨城県産業会館8階 029-224-0610